

大切な人を見守る。プライバシーも守る。



AIチップにより、センサー内部で人間の姿を棒人間に変換。

大事なプライバシー情報が、クラウドへ送信・保管される事はありません。

検知機能

転倒検知の応用



① 転倒検知

床(緑色箇所)に転倒すると検知します。



② ベッド落下検知

ベッドは床と認識させず床のみを認識させると、ベッドから床への落下を転倒と判断し検知します。

侵入検知の応用



③ 侵入検知

侵入禁止エリアを設定(青色)すると、そこへ侵入した場合に検知します。徘徊検知などに活用できます。



④ ベッド起き上がり検知

ベッドから上体が起きあがる場所を禁止エリアに設定すると、ベッドからの起きあがりを侵入と判断し検知します。

事故が検出されました

柴田さんが居室に転倒しました。
棒人間センサーAPPを開いたら表示されます。

事故が検出されました

柴田さんが制限付きゾーンに入りました。
棒人間センサーAPPを開いたら表示されます。

会話機能



全てのアラート検知画面から通話機能を利用可能。すぐに駆けつけることができない時でも、通話機能を利用して状況確認が可能です。見守られる側もすぐに誰かの声が聴こえて安心できます。

その他機能

顔認証機能



顔写真を最大4枚まで撮影して、名前やカテゴリー（高齢者、職員、来訪者）の登録を行います。するとセンサーが顔認証登録した人物を認識して名前が表示されます。

顔認証機能はセンサー内で撮影された座標データをクラウド上で保管されている顔写真座標データに照らし合わせて行われます。

※赤外線モード（暗い場所）では精度が弱くなります。

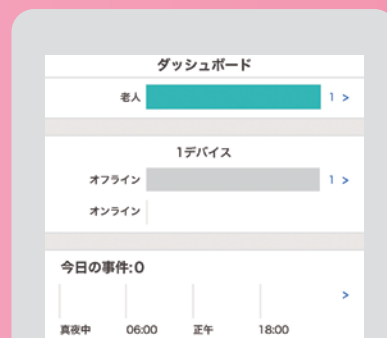
転倒リスク評価



5つの質問に回答し、センサーで撮影した歩行動画を取り込む事により対象者の転倒リスクレベルを知る事ができます。

この評価精度の特異度は80%以上、評価信用度は0.96と高い精度で全世界で使用されています。本来は病院やリハビリステーションで行う評価をAI見守りセンサーで行う事ができます。

ダッシュボード機能



見守り対象者の日常生活をアプリ内で行います。また、AIが日頃の行動の活動状況を表示したり転倒場所のマーキングなどを行います。

ios、androidアプリケーションを用意

スマホ、タブレットなどから誰でもダウンロードできるアプリケーションをご用意。

アカウント作成、Wi-Fi設定などを行えばすぐにご利用いただけます。

設定方法も簡単。動画マニュアルもご用意しています。

API連携も可能

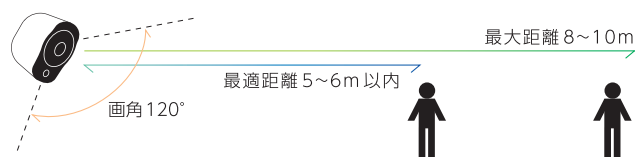
amaneku2で取得したデータを、既存サービスにクラウド連携する事も可能です。

API仕様書を公開可能なので、自社サービスとの連携はもちろん、プラスα機能を付け加えた独自システムの構築も可能です。



■製品仕様

製品名	amaneku2™
CPU	Rockchip RV1126/RV1109
DRAM	2GB
eMMC Storage	2GB
4G/LTE	BG95 (optional)
Wi-Fi	Wi-Fi 2.4G/5GHz (WPA2 security protocol)
イメージセンサー	1080p
画角	120°
本体消費電力	5W
外形寸法	75 x 65 x 50 mm
重量	100g
証明書	FCC, IC, MIC
ACアダプター入力	100-240V, 50/60Hz
ACアダプター出力	5V, 2A, USB interface



■機能仕様

	最適距離	最大距離
転倒検知	<6m	10m
SOSサイン検知 ※	<5m	8m
顔認識	<5m	8m
通話機能	<5m	10m

※手を振って救助を求めることの検知

【販売代理店】 Distribution agent

PSL INC.
株式会社ピーエスエル
<https://science-law.jp/>

〒600-8861

京都市下京区七条御所ノ内北町63番地1-615

TEL 075-326-6036

詳しくはコチラ

amaneku 見守り



amaneku2